

蓮田のお正月



《はじめに》

しめかざ おかがみもち はつもうで
松飾りや注縄飾り、御鏡餅や初詣とお正月行事は現代も盛んにおこなわれています。

ここでは、裏面の「蓮田のお正月カレンダー」を見ながら、蓮田で古くから行われてきた正月行事を少しくわしくご紹介することにしました。なつかしかったり、今でもやっているという声もあることでしょう。皆様のご家庭で実施している行事がありましたら、文化財展示館にお声かけください。

—《正月準備》—

正月の準備は現在でも各家庭で行われています。ススハライは^{おおそうじ}大掃除として受け継がれ、餅や注連縄・門松は購入することが多くなりました。

【餅つき】◎ 南新宿のある家では、餅つきの前日は臼をきれいに洗って^{たつみ}辰巳(南西)の方向に^{うす}転がしておきました。臼の下には新しい藁を十文字にしき、餅を蒸すカマドにも清めの塩を盛りました。29日(苦餅)、31日(一夜餅)は餅をつくの避けました。

【注連飾り】◎ 注連縄は^{きょうかい}境界を表します。出入りを禁止することを示すために張る縄で、お供えといっしょに飾ります。稲刈りのときにきれいな藁を選んで用意しておき、よりをかけ、台の上でたたいてやわらかくして作ります。注連縄には、暮れに神主や^{せんだつ}先達(大山講・富士講などの講員を率いる出家しない修験者のこと)にもらいうけたシデ(紙垂・四手)を飾りました。注連縄は神様によって形が異なり、八丁注連(ハッチョウジメ)という細いものを^{こうしん}荒神様に、^{だいじんぐう}大神宮様には太い注連縄(ゴボウジメ)を飾りました。



(上)大神宮様とゴボウジメ
(右)荒神様とハッチョウジメ



注。「大神宮」というのは伊勢神宮のことです。家の中心の神棚には伊勢神宮のお札を祀り、大神宮様と呼んでいます。荒神様は屋内の火を使うところに祀られ、火の神・火伏せの神様という性格を持ちます。

おおみそか みそかばら
【大晦日】◆ 大晦日の夜はミソカッパライ(晦日祓・悪魔祓い)をやります。幣束(カマジメともいう)を神社からいただいてきて、年男が^{へいそく}神棚に祈った後、幣束で家族全員の頭の上を祓います。使用した幣束は屋敷地の角や屋敷の入口の辻にさします。大晦日の夜はけんちん汁や年越しそばを食べます。



ミソカッパライ



歳神様

参考引用文献「蓮田の年中行事と祭り」(平成17年 蓮田市教育委員会)

正月は、元日を中心とする期間を「大正月」と15日を中心とする小正月の大きく二つの期間に分かれます。

—《大正月》—

【歳神様と年男】△ 「トシ」は穀物の稔りを意味する「稔」と通じる事から、豊作や一家の幸福をもたらす神様です。歳神様は女性の神様で、元旦に来て「卯の日・卯の刻」や14日に帰っていくと言われ、特別の棚や大神宮様の隣にお祀りしました。年男は一家の戸主や長男が務め、正月の間、神様へのお供え物(雑煮など)を作り、失礼のないようにもてなしました。

【餅なし正月】☆ 市内各地には正月に餅を食べないという家もあります。正月三が日は神棚にお供えをせず、家の人も雑煮を食べなかったり、神様から隠れて食べたりしました。また、神棚に手打ちうどんやお汁粉を供える家もありました。

【七草】◆ 正月7日に七草(なずな・せり・ごぎょう・はこべら・ほとけのざ・すずしろ・すずな)の入ったおかゆを作り、神様や仏様、門松・蔵などにお供えします。七草の葉を切るとき、まな板の上で^{ぼうちよう}包丁をカタカタと調子をとりながら、次のように唱えたりしました。♪「唐土の鳥が日本の土地へ渡らぬ先に なずな 七草 トコントコトン」(上平野・下閨戸)。七草の行事で大正月が終わるとされ、門松や注連縄は取りはずされました。七草までを「松の内」といいます。

—《小正月》—

【ハナ】☆ 14日にはニワトコの枝でハナ(花)、ケズリバナ(削り花)などと呼ぶ飾り物を作りました。ニワトコは一年で一番早く芽を出し、成長するのも速い木です。ニワトコの表皮を小刀の先が^{ひょうひ}鉤に曲がったハナ作り専用の道具で剥いて花びらのような飾りを作り、^{たい肥}たい肥上に挿したり、家の神様に供えました。



【繭玉団子】△ 小正月14日の朝、お供えやお飾りを外して、繭玉団子(メーダマダンゴ)を供えます。農作物の豊作を祈願するもので、養蚕のさかんな関東地方で盛んに行われていました。うるち米の粉を湯でこねて丸形や、野菜の形などをしたダンゴを作りセイロで蒸し、できた繭玉団子を木の枝(ダンゴギ。クヌギ、ナラなど)に挿します。家や神様によって団子の数は様々でした。また、宿下のある家では台所に臼を持ち込み臼の上に米俵をのせて俵神様を祀り、ナラの木に挿した繭玉団子をお供えしました。



繭玉団子(「蓮田の年中行事と祭り」掲載イラストに彩色)

—《二十日正月》—

【恵比寿講】※ 正月20日と11月20日に恵比寿講が行われます。恵比寿・大黒様をちやぶ台などにお祀りし、御神酒や高盛りのご飯、けんちん汁、サンマなどの尾頭付きの魚、生きたフナ(カケブナ)をそれぞれにお供えします。また、一升マスにお金や財布を入れてお供えすると、それを持って恵比寿様と大黒様が働きに出かけ、秋の恵比寿講に戻ってくると言われています。